

WOMEN

第2部
なでしこの明日 ①

日本の女子スポーツの多くがマイナーゆえの悩みを抱えている。情熱があっても、続ける手段を持たない選手たちは、次々と競技を離れ、全体のレベルが落ち込んでいく。昨夏のワールドカップ(W杯)で優勝し、脚光を浴びた女子サッカーは、今、マイナー競技とメジャー競技の間で揺れている。WOMEN第2部は、サッカーを通して、女子スポーツの未来を展望する。

ボールを追うFW永里優季(24)(ポツダム)の顔が、ほんのり赤かった。「たっくさんの日本のファンが盛り上がり過ぎてくれたうれし」。今年4月のキリンチャレンジ杯。W杯優勝後初の国内開催となった国際試合で、米國、ブラジルの強豪を招いた。2試合とも観衆は1万人を超え、スタジアムに温かい声援が響く。ドイツ帰りの永里は、ホームの雰囲気を感じていた。確かにW杯以前では考えられないことだ。2010年5月のメキシコとの国際親善試合2試合の観客は24000、20000人。1996年アトランタ五輪まで約7年間、日本女子代表監督を務めた鈴木保・立教大男子サッカー部監督も「私が率いた頃は、観客もまばら。隔世の感がある」と話す。他競技を引回しても、女子の国際試合で1万人以上

キリンチャレンジ杯の観衆(上段)とテレビ視聴率(下段)

4月1日(日)米國戦	1万5159人
ユアスタ(収容1万9694人)	14.8%
5日(木)ブラジル戦	1万2862人
ホームズ(収容3万132人)	17.5%

※視聴率は関東地区平均、ビデオリサーチ社調べ

有名になっただけれど...

を集められるのは、フィギュアスケートなど一握りだ。

だが、キリンチャレンジ杯のスタンドを、日本サッカー協会の上田栄治・女子委員長は厳しい目で見ていた。チケットは前売り指定席で3000~5000円とJ1公式戦に近い料金だったが、米國戦は完売に至らなかった。平日夜の開催だったブラジル戦はさらに低調で、6割が空席。テレビ視聴率は、昨年来の好調を保って、2試合とも15%前後。20%前後の男子代表戦にもひけを取らない。今や選手の顔と名前が、日本中に知れ渡った。W杯以降、なで



キリンチャレンジ杯のブラジル戦。スタンドには空席も目立った(4月5日、ホームズスタジアムで)

客足に直結せず ■「他分野と連携必要」

※対象は2011年8月5日(12年5月15日、東京キー5局)に登場した新CM(CM総合研究所調べ)

選手	企業	作品
希 美	12	20
穂 奈	8	8
澁 奈	8	6
海 あ	6	6
野 忍	6	5
近 翼	6	5
丸 山	5	4
山 桂	4	4
清 水	4	4
阪 口	3	3
宮 間	3	3
あ や	3	3

なでしこのCM数
出演CM数

昨夏のW杯直前、開催国のドイツで女子サッカー選手のスヌード写真が週刊誌に掲載され、ちょっとした話題になった。W杯開催を機に、認知度の低い国内リーグをアピールするのが目的だった。モデルの一人でバイエルン・ミュンヘンのMFユリア・シミッチ(23)は「注目されるのは男子のブンデスリーガばかり。女子は強豪とは言っても国内では認識されていない」と話す。国際サッカー連盟(FIFA)の世界ランキング2位で、日本(3位)の上にいるドイツでも競技環境は厳しい。



シミッチ (バイエルン・ミュンヘン提供)

し関連のテレビCMが次々と作られ、沢穂希(33)(INAC神戸)の20本は「女性アスリートとしてトップ級」(CM総合研究所)という。そうしたお茶の間での浸透度が、客足には直結していない印象だ。上田委員長は「お金を出して見に行くほどではない、と思っている人が多いのではないか。会場に足を運

ぶ熱心なファンをもっと増やしたい」と課題を見据えた。テレビ人気が先行する「なでしこファイバー」は、誰に支えられているのか。番組制作会社出身の碓井広義・上智大教授は、なでしこの試合中継視聴率が、昨年9月のロンドン五輪アジア予選では午後5時台でも25%以上を記録す

るなど、時間帯に左右されない傾向にあることに注目し、「主婦など女性を中心とする層が、テレビをつけているのでは」と分析する。そうした傾向をふまえ、平田竹男・早大教授(スポーツビジネス)も「欧州サッカーの中継を日夜チェックする男子競技の熱狂的ファンと、女子競技を見るファンは別々であり、興味の持ち方も違うと考えた方がいい」と語る。

平田教授は、日本サッカー協会の専務理事を務めていた04年前後、知名度が低迷していた女子サッカーの普及を目指し、芸能人フットサルと連動したキャンペーンを仕掛け、一定の効果があった。「観客を増やすなら、ロンドン五輪で好成績を残すことに加え、ビジネス、教育、福祉などの他分野と連携するといった新たな集客戦略を工夫することも必要だ」と指摘する。

人気を定着させ、メジャー競技への階段を上がるにはどうすればいいのか。関係者は真剣に考え始めた。最大の問題は、日本と同様、選手として生計を立てるのが難しいことだ。リーグ戦観客数は数百人から1500人程度。一部のバイエルンでも選手約30人のうちプロは約3分の1で、残りは学生や会社員だ。カーリン・ダンナー・マネジャーは「競技だけで生活できるのは一握りだけ」と話す。

強豪ドイツも厳しい環境

話題作りに「一肌脱ぐ」

選手の間では、23歳が競技を続けるか否かの分岐点と言われる。それより年齢を重ねると、再就職先を探すのが難しくなるからだ。学生のシミッチは今年、分岐点の年齢を迎えた。「この一年で競技をやっていかないと見極めたい。代表に呼ばれる実力がないと分かったら、引退して別の道に進むつもり」と言い切る。